

災害時における医用画像データの安全・確実な保管環境を提供！

シナプス
「SYNAPSE」向けクラウド型データストレージシステムを新開発

シナプス プラスストレージ
- 医用画像データ保管サービス『SYNAPSE + STORAGE』を今秋より提供開始 -

平成 24 年 7 月 18 日

富士フイルム株式会社（社長：中嶋 成博）は、臨床現場から高い信頼と評価を得ている医用画像情報システム（PACS*1）「SYNAPSE（シナプス）」を展開しています。独自の画像処理技術を搭載した「SYNAPSE」は、国内で約 1,700 の医療機関に導入され、トップシェアの実績を誇ります。今回、「SYNAPSE」導入先に向け、災害時における医用画像データの安全・確実な医療機関外での保管環境を提供することを目的に、医療機関の診断画像をデータセンターで保管する、クラウド型データストレージシステムを開発しました。

本システムの開発は富士フイルムメディカル（社長：平井 治郎）が行い、平成 24 年秋より、本システムを応用した医用画像データ保管サービス「SYNAPSE +STORAGE（シナプス プラスストレージ）」を同社が提供開始いたします。

2010 年 2 月の厚生労働省の通知により、診療録に類する情報の医療機関外での保管が認められるようになりました。一方で、受診患者の個人情報保護や情報の確実な保管を実現するためのシステム要件などの課題から、医療機関外での画像データ保管はなかなか進んでいないのが実状です。また、医療機器の進歩により、病院などで発生する画像データ量は急激に増えており、それに伴う IT 投資の増大、特に大規模なシステムの管理運営などが大きな経営課題となっています。さらに、災害による画像データの消失を防ぐために、医療機関外にて安全に画像データを保管しておくことの重要性も認識されてきています。

今秋から展開する「SYNAPSE +STORAGE」は、「SYNAPSE」で管理する画像データを富士フイルムのデータセンターにバックアップするサービスです。CT などの各モダリティで撮影された画像データは、「SYNAPSE」に保管されるのと同時に、各種のガイドライン*2に準拠したデータセンターにも自動的に保管されます。データセンターで管理する画像データは、異なる場所のデータセンターで二重管理され、万一の災害時に医療機関側の画像データが消失した場合でも、データセンター内にバックアップした画像データを利用して復旧することが可能です。

さらに、お客様のニーズに応じて、本サービスを以下のように利用いただくことも可能です。

- ・ 「SYNAPSE」で管理する画像データのうち、利用頻度の高い直近の画像データのみを医療機関側の SYNAPSE サーバーに保管し、利用頻度の低い過去の画像データをデータセンターに移して、効率的に管理することが可能。
- ・ 医療機関内の「SYNAPSE」サーバーの保管容量を拡張する目的として、データセンターのストレージを利用することが可能。

「SYNAPSE +STORAGE」の利用により、医療機関におけるサーバーなどの運用管理にかかる費用の低減が見込め、経営効率改善への寄与が期待できます。

富士フイルムは、今後も各医療施設の幅広い画像診断についての要望に対応する最適なソリューションを提供し、医療の質や効率の向上、人々の健康の維持・増進に貢献していきます。

*1: Picture Archiving and Communications System の略。CT、MRI、CR などの医療画像診断装置からの検査画像を電子的に保存・検索・解析する医用画像情報システム。

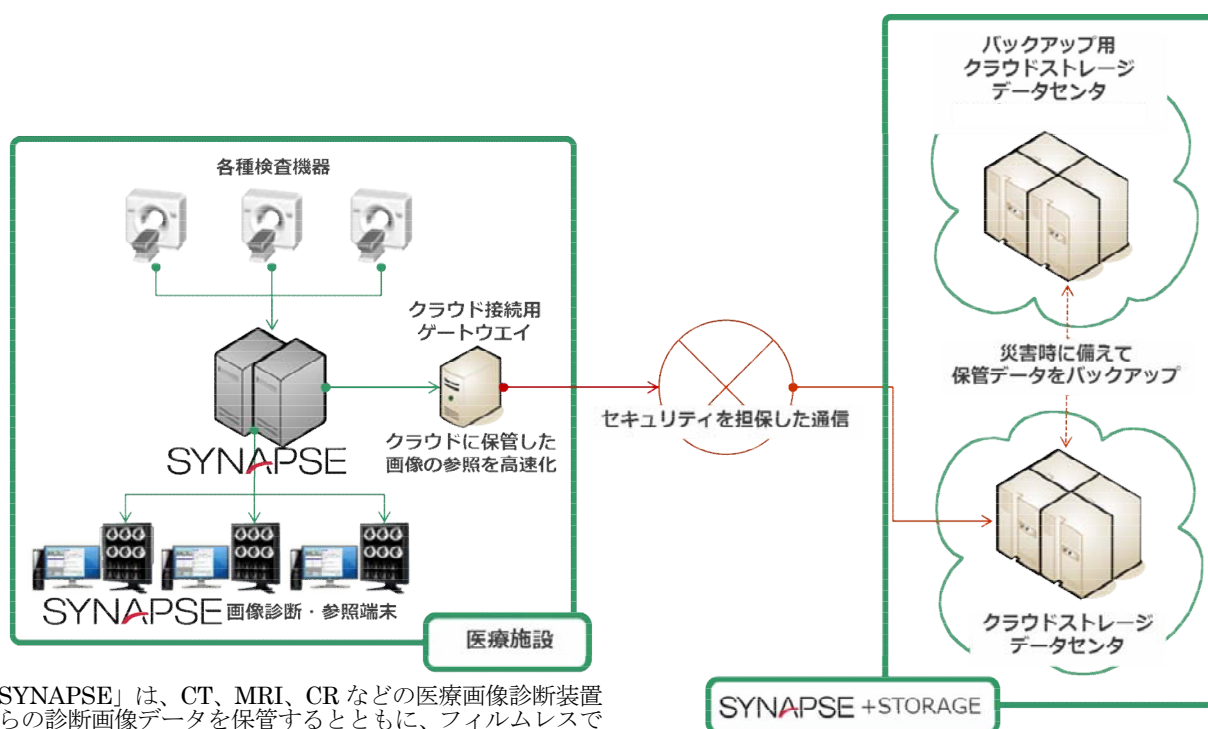
*2: 「ASP・SaaS事業者が医療情報を取り扱う際の安全管理に関するガイドライン」（2010年12月総務省）、「医療情報を受託管理する情報処理事業者向けガイドライン」（2008年7月経済産業省）。

記

1. 今秋開始予定の「SYNAPSE +STORAGE」の特長

- (1) 「SYNAPSE」で管理されている画像データを各種のガイドライン*2に準拠した富士フィルムデータセンターで保管します。データセンターで管理する画像データは、異なる場所のデータセンターで二重管理されます。万一の災害時に医療機関側の画像データが消失した場合でも、データセンター内にバックアップした画像データを利用して復旧することが可能です。
- (2) CTなどの各モダリティで撮影された画像データは「SYNAPSE」に保管されるのと同時に、自動的にデータセンターにも保管されます。
- (3) お客様のニーズに応じて、以下のような利用方法を選択することが可能です。
 - ・院内に導入されている「SYNAPSE」サーバーでは、利用頻度の高い直近の画像データを管理し、富士フィルムデータセンターには利用頻度の低い過去画像データを保管することで、効率的に画像を管理できます。
 - ・院内のSYNAPSEサーバーの保管容量を拡張する目的として、データセンターのストレージを利用することができます。
- (4) 医療機関内に設置されるクラウド接続用ゲートウェイ内のキャッシュ機能を利用することで、データセンターに保管された画像データへ高速にアクセスすることができます。利用者は、医療機関内に導入されている「SYNAPSE」サーバーで保管する画像データと、データセンターで保管する画像データの違いを意識することなく、スムーズにデータを参照することができます。

2. 「SYNAPSE +STORAGE」サービスを実現・利用するためのシステム構成



「SYNAPSE」は、CT、MRI、CRなどの医療画像診断装置からの診断画像データを保管するとともに、フィルムレスでの画像診断を実現する富士フィルムの医用画像管理システム（PACS）です。

本件に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

報道関係 富士フィルム株式会社 広報部

TEL : 03-6271-2000

お客様 富士フィルムメディカル株式会社 営業本部マーケティング部

TEL : 03-6419-8033

インターネットホームページアドレス

<http://fujifilm.jp/business/healthcare/>